

## 資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 資本論 | 資本論 (3)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

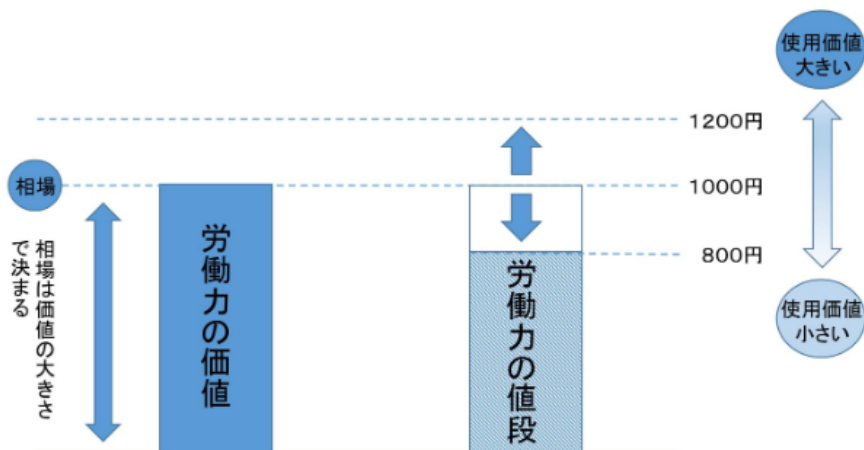
資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

### 資本論 (3)

マルクスは、取引するものはすべて「商品」とであると説いた。そして、その商品の値段は、商品の「価値」が相場となり、「使用価値」の大小により上下するとした。そうすると、人間の労働力も「商品」ということになる。会社のために時間と体力と知恵を使って働き、その対価として給料を受け取るから、立派な取引だ。それでは、その労働力の「価値」は、どのように決まっているのだろう。商品の価値は、商品の生産コストの合計である。それでは「労働力」の生産コストとは何だろう。人間が働くには、その仕事をする体力と知力（知識・経験）が必要だ。それらのコストは、世間一般で考えられた相場で決められる。なぜ医者給料は高いのか？ それは医者仕事をするのに必要なスキルを身につける労力が大きいために、医者労働力の価値が高くなり、給料が高くなるという理屈である。逆に、誰にでも簡単に始められる仕事は「身につけるスキル」がないので、その分、給料は安くなる。「体力的にキツイ」とか「精神的に疲れる」とかは関係がない。その「労働力」をつくるための原材料費が少ないため給料が少ないのである。



商品には価値と使用価値の両方が必要

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

傾聴

語り部スキル

>>一覧へ戻る

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

**Worker's Library** 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.